

スクーリングはオンデマンドと会場、それぞれの良さがあり、受講してよかったです



対馬 菜月さん

1年次入学

青森県

年代：20代（取材時）

職業：公務員・教育関係

— 入学のきっかけは？

高校卒業後、特別支援学校で働き始めました。はじめは独学で勉強していましたが、仕事を続ける中で、障がいについてだけでなく、障がいをもつ人を取り巻く環境、福祉の現状や未来についてより深く学びたいと思うようになりました。そこで、社会福祉について様々な視点から広く学ぶことができる社会福祉学科に入学を決めました。

— 入学後大変だったことは？

学習時間を確保することが大変でした。私はほぼ毎月、2～3つのオンデマンド・スクーリングを受講していました。そのため、講義動画を見る時間、レポートを作成する時間など、とにかくたくさんの時間が必要でした。日々の生活の中でそれを確保すること、さらにモチベーションを維持して取り組むことも大変でした。

— 大変だったことを乗り越えるために工夫したことは？

学習予定用のカレンダーをつくり、見通しをもって学習に取り組みました。そうすることで、毎日計画的に取り組むことができました。また、論述式レポートはなかなか筆が進まないときもありましたが、「次のオンデマンド・スクーリングが始まるまでに完成させるぞ！」という気持ちで取り組むことで、ため込まずに作成することができました。

— オンデマンド・スクーリングを受講しての感想は？

わからないところや理解を深めたいところを何回でも巻き戻して聞くことができ、ノートをまとめるときも動画を停止して書き込むことができるため、自分のペースで学習が進められて良かったです。板書が見えづらい、先生の声が聞こえづらいということも全くなく、会場で講義を受けている感覚で受講できました。

— 入学してから今までで印象に残っていることは？

1年生の時に受講した会場スクーリングです。実際に会場に行くことで、一緒に学んでいる仲間に出会うことができ、学習のモチベーションがより高まりました。普段は1人で黙々と学習していたため、グループワークで和気藹々と意見交換できたことが楽しかったです。

— 入学してよかったと感じていることは？

様々な内容の講義を受講できたため、障がいのある人と関わる際に、本人の視点に立ち、想像力をもって関わるできるようになってきたと思います。また、レポートをたくさん作成することで、資料を読み込む力や考えをアウトプットする力も入学前に比べると向上したように感じ、そうした力も仕事に役立っていると実感しています。



社会福祉士

松下 典志さん

3年次編入学



神奈川県

年代：20代(取材時) 卒業：2024年9月

職業：地域密着型通所介護・管理者

— 入学の動機、入学前と卒業後の意識の変化、今後の目標などについてお聞かせください。

入学の動機は、専門職としてのスキルアップでした。現場の中で、理論と実践の乖離に悩んでいたところ、実践知を習得する教育理念に関心を持ち、東北福祉大学へ入学を決めました。入学前は仕事と学業の両立に不安がありましたが、講義やレポートに取り組む内に、学ぶことの楽しさが大きくなり、勉学に励むことができました。

— 在学中の学びで印象に残ったことや、苦勞したエピソードをお聞かせください。

在学中、印象に残り、苦勞したエピソードはレポート学習です。入学当初で、モチベーションは高い状態、集中して講義を聴講、自分でも不明点を調べ、自信満々で提出した初めてのレポートがまさかの再提出判定。教授からは「自分の言葉で展開しようとする姿勢は評価できるが、講義内容について誤認識がある。」との評価でした。

— 苦勞をどのようにして乗り越えたかお聞かせください。克服方法は2点。まず大学に不明点を聞くことです。返事

卒業年度の学習状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レポート												
スクーリング												
実習												
国家試験勉強期間												
その他												

も早いため、不足部分がすぐにわかります。次に経験者にコツを聞くことです。その経験者のコツは「(序論・本論・結論といった)体裁を整えること」で、おかげでその後の評価は「優」の連発でした。(笑)

— 本学での学びが現在のお仕事や生活場面にどのような影響があるか、活かされているか、今後の目標などについてお聞かせください。

入学前は、個別支援という視点に重きを置いていましたが、現在は、個別支援から地域支援という広い視点を持てるようになりました。現在、実践では、クライアントの内的資源を活かした地域支援を意識できております。この視点を身につけられたのも、大学での講義や実習などのおかげです。今後はクライアントがストレングスを発揮して、地域や社会で活躍し、何歳になっても前向きに人生を謳歌できるような支援を行ってみたいです。



精神保健福祉士

押野 晃也さん

3年次編入学

宮城県

年代：30代(取材時) 卒業：2025年3月

職業：就労継続支援B型事業所・生活支援員

— 入学の動機、入学前と卒業後の意識の変化、今後の目標などについてお聞かせください。

私が本学への入学を希望した理由として一番大きかったことは、友人の鬱による自死でした。亡くなる数日前に会っていたにも関わらず友人の変化に気づくことが出来ませんでした。そのことから、精神障がいのことを勉強してこれからの人生で多くの人を救いたい、また、働く上で資格を取得することで支援の幅を広げることができるのではないかと思ったことがきっかけでした。今後の目標としては、支援者として取得した精神保健福祉士の資格を生かしながら個性・専門性を重視した支援を行いたい。さらにそれに加え、年々増加してきて

いる心の病気の方だけではなく、心に不調のある方にいち早く気づき手を差し伸べられるような人になりたいです。

— 在学中の学びで印象に残ったことや、苦勞したエピソードをお聞かせください。

在学中に特に印象に残ったことは、医療機関実習でのエピソードです。急性期病棟のある患者様と関わらせていただきました。その方が入院した経緯をお話してくださった時に「あなたには私の気持ちが分からないでしょうね。」という一言をいわれ何も言うことができずその時にとても考えさせられました。支援者として相手のことを理解しようと努めることはできるが、相手のことを完全には理解することはできないというもどかしさを感じました。指導者様からは関わり方の正解は一つではないということを教わって心がとても軽くなりました。そして、その言葉があったからこそ、実習をやり遂げることができました。

卒業年度の学習状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レポート												
スクーリング												
科目修了試験												
実習												
国家試験勉強期間												